

2021事業計画とエナジートランジション

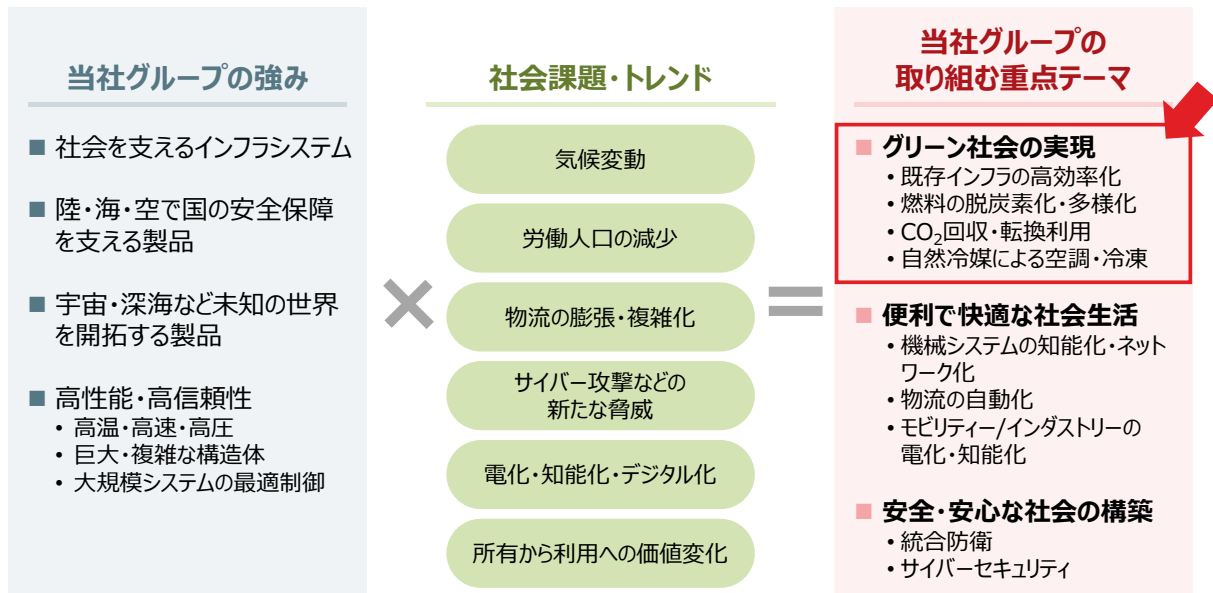
常務執行役員
CSO 兼 成長推進室長
加口 仁

CSOの加口です。

本日は、10月30日に発表した「2021事業計画」において、当社グループの今後の成長エンジンと位置づけている「エナジートランジション」の取組みを説明します。

私からは、イントロダクションとして、エナジートランジションに関連する2021事業計画の内容を紹介します。

長い歴史の中で培われた技術に最先端の知見を取り入れ、
変化する社会課題の解決に挑み、人々の豊かな暮らしを実現する



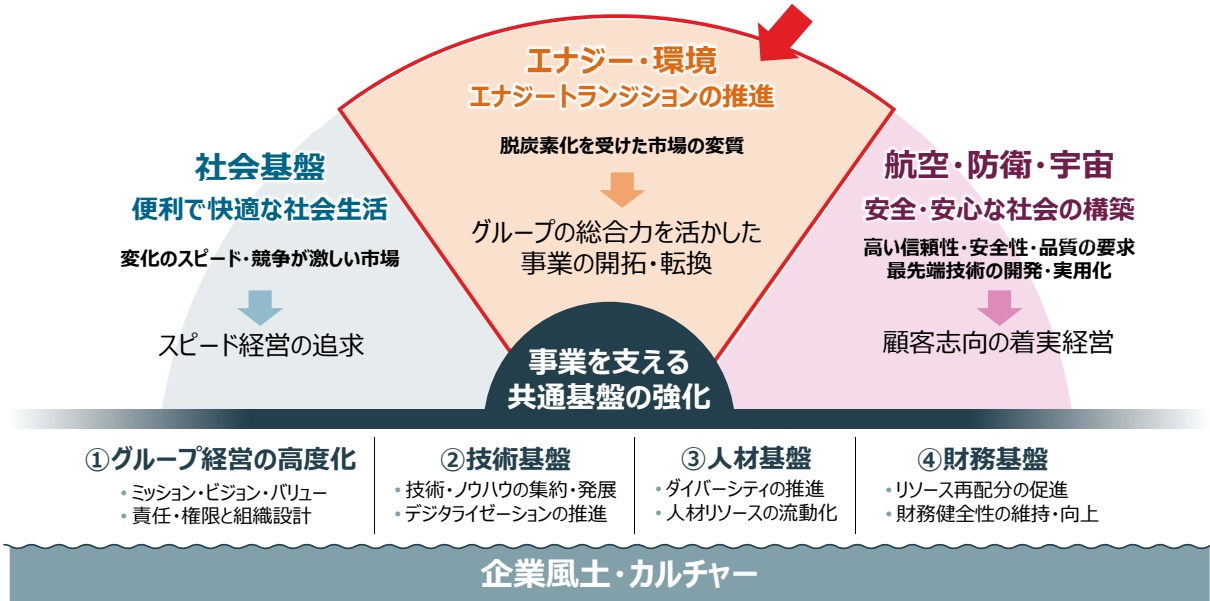
今回、三菱重工グループのミッションとして以下のものを決めました。

「長い歴史の中で培われた技術に、最先端の知見を取り入れ、変化する社会課題の解決に挑み、人々の豊かな暮らしを実現する。」というものです。

このミッションを果たすために、これまで培ってきた当社グループの強みに、現在の社会課題やトレンドを掛け合わせ、将来に向けて当社グループが取り組むべき3つの重点テーマを設定しました。

その第一番目に挙げたテーマが「グリーン社会の実現」です。温室効果ガスによる気候変動は地球規模の問題であり、この課題に重点的に取り組むことが、社会インフラを担う当社としての責任と考えています。グリーン社会の実現のために、既存インフラの高効率化から始まり、発電などの脱炭素化やCO₂の回収、転換利用などに取り組みます。本日説明するエナジートランジションは、この重点テーマに該当します。

- 当社グループは、幅広い事業活動で培われた技術・知見・人材を集約・蓄積
- 各事業領域は、共通基盤の強みを活かして、それぞれの事業環境に応じた経営で伸長を図る



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

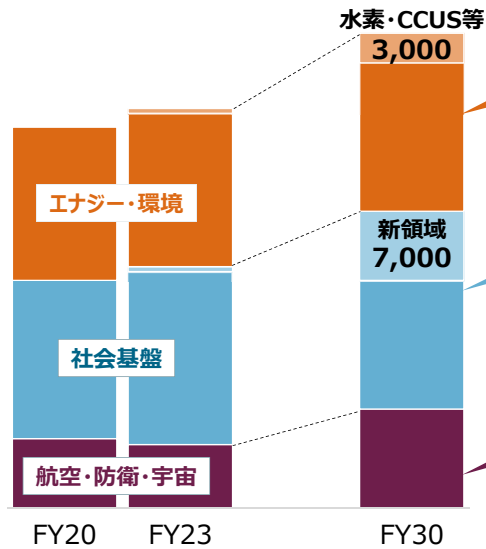
当社グループが、なぜエナジートランジションに取り組むことができるのか、取り組むべきなのかを説明したいと思います。

エナジートランジションでは、例えば大規模な発電設備に水素を活用してグリーン化をしていくというような、長期のインフラの整備が必要です。そこには、当然ながら新しい技術の開発もあるでしょうし、実際に設備を製造し、建設するという長期の取組みが必要です。

このためには、これまで多くの製品で培ってきた技術基盤および人材基盤を最大限に生かしていくこと、また、10年、20年のタイムスケールでの取組みが必要となるため、それを支える財務基盤が必要となります。これらの技術基盤、人材基盤、財務基盤を備えているのが当社グループであると考えています。

「エナジートランジション」と「モビリティ等の新領域」を成長エンジンとして、事業ポートフォリオを入れ替つつ、企業価値の大幅向上を実現する

事業領域と規模（億円）



エナジー・環境

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、組織を横断したグループ内外の連携により、エナジートランジションを促進

社会基盤

既存分野の強みと機械システムの知能化により、物流・CASE・コールドチェーン・電化コンポーネントなど、成長性の高いモビリティ等の領域で事業拡大

航空・防衛・宇宙

航空・宇宙 - 事業領域の拡大
防衛 - 陸・海・空 + 宇宙の統合防衛、省人化・無人化・サイバーセキュリティへの取り組み

CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage CASE: Connected, Autonomous, Shared and Electric

2030年の当社グループの目指す姿を事業規模として示します。

当社グループは、「エナジートランジション」と「モビリティ等の新領域」の2つを成長エンジンとして、事業ポートフォリオの入れ替えを行うことで、成長性を高め、企業価値を大幅に向上させる計画です。

このうち、エナジー・環境分野では、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、エナジートランジションを推進し、2030年において、水素関連事業やCO2関連事業で、3,000億円規模の事業を創出します。この領域は、2050年に向けて、更なる拡大を期待しています。

FY2023目標

収益性

事業利益率 7%
ROE 12%

成長性

成長領域への投資を強化
18事計期間：800億円から
21事計期間：1,800億円へ

FY23に売上1,000億円規模の新事業創出
→ FY30に売上1兆円規模へ

	エナジートランジション 新領域	モビリティ等 新領域	合計
21事計での投資	900	900	1,800
FY23売上	500	500	1,000
FY30売上	3,000	7,000	10,000

最後に、2030年に向けた2021事業計画の数値目標を説明します。

本事業計画の重点課題は収益性の向上と成長領域の開拓の2点です。まず、収益性は、足元の新型コロナウイルス影響からの回復、固定費の削減、SG&Aの低減などの各種施策に取り組み、事業利益率を7%まで向上させます。

もう一つの成長性については、本日説明するエナジートランジションの推進を通じて、成長性の高いポートフォリオに組み替えていくことが最重要課題です。先ほど述べましたように、水素やCO2の回収・利用の新事業により、2030年までに3,000億円規模まで成長させます。

■ エナジートランジション

- ・ エナジートランジション～三菱重工グループの新たな挑戦～
：エナジードメインCEO 細見健太郎
- ・ 脱炭素に向けた原子力事業の取組み
：原子力セグメント長 加藤顕彦

■ エナジートランジションを支える共通基盤

- ・ 基盤技術：CTO 伊藤栄作
- ・ 財務基盤：CFO 小澤壽人

私の説明は以上です。これから、各項目を責任者から説明します。

まず、エナジートランジションの全体像を、エナジードメイン長の細見から、また、エナジートランジションの中での原子力事業の取組みを原子力セグメント長の加藤から、説明します。

ここでは、社会動向と、当社が考えるエナジートランジションの世界観を示し、当社が提供していくソリューションを説明します。

次に、エナジートランジションを支える共通基盤を、技術についてはCTOの伊藤より、財務についてはCFOの小澤より説明します。

以上、簡単ですが、当社グループが目指す姿と取組み、その中でのエナジートランジションの位置づけや目標を説明しました。エナジートランジションは、当社グループの将来を担った一大プロジェクトであり、その実現のために、グループの総力を結集させて取組みたいと思います。

本説明で、我々の取組みや、狙いについて皆様のご理解が深まったのであれば幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

MOVE THE WORLD FORWARD

mitsubishi
heavy
industries
group